

## 中央線鉄道唱歌(明治44年)

作詞;大和田建樹(たけき) 作曲;多 梅稚(おおの うめわか)  
(明治33年の東海道線の鉄道唱歌と同じコンビ)

- 1 汽笛一声わが汽車は  
はや離れたり**飯田町**  
**牛込 市ヶ谷 堀の端**  
**四ツ谷**出づれば**信濃町**
- 2 **千駄ヶ谷 代々木 新宿**  
中仙道は前を行き  
南は品川 東海道  
北は赤羽 奥羽線
- 3 **大久保**つつじの花盛り  
**柏木 中野**に兵營を  
見るや**荻窪 吉祥寺**  
**境**を過ぐれば**国分寺**
- 4 **立川**越えて多摩川や  
**日野**に**豊田**や**八王子**  
織物業で名も高く  
中央線の起点なり
- 5 **浅川**行けば**小仏**ぞ  
**沢井沢**をば早渡り  
**与瀬 上野原 鳥沢**か  
谷間に架けしは**猿橋**か
- 6 甲斐絹の産地で知られたる  
郡内地方は此のあたり  
山の中なる**大月**に  
水力電気の事業あり
- 7 ここは名に負う**笹子**嶺  
トンネル一万五千尺  
徒歩にて越えしは十年前  
居ながら通る気楽さよ
- 8 **初鹿野 塩山 高嶽寺**  
温泉効験(ききめ)いと多く  
差出(さしで)の磯の**日下部**と  
蛍で名高き**石和町**
- 9 次は**甲府**の城の跡  
山岳四面に重畳(ちようじよう)し  
甲州一の大都会  
山梨県庁此処に在り
- 10 **竜王 韮崎 日野春**は  
八ヶ岳をば右に見て  
**小淵沢**より**富士見台**  
海拔三千百余尺
- 11 **青柳 茅野**に上**諏訪**よ  
左に**諏訪湖**冬ならば  
吾もスケート試みん  
右には温泉**諏訪神社**
- 12 **下諏訪 岡谷**は製糸業  
煙突繁きは国の富  
天竜川は此処に出て  
遠州灘に注ぎ入る
- 13 **辰野 小野**も通り過ぎ  
伊那谷渡りて**塩尻**は  
茫(ぼう)たる平野にステーション  
篠ノ井線の分岐点
- 14 桔梗が原の古戦場  
満目荒涼(まんもくこうりよう)風寒く  
北信萬峰巍巍(ぎぎ)として  
深志(ふかし)の城は目に近し
- 15 道は再び中仙道  
遠く連なる越の道  
是より西は木曾路にて  
**洗馬**(せば)や**贄川**(にえかわ)**奈良井**并これぞ日本の輸出品
- 16 本州中部の分水嶺  
鳥居峠のトンネルは  
基面の高さ日本一  
峠を越えれば木曾の谷
- 17 眼下一転鬱蒼と  
茂は御料の林なり  
広もう三十五万町  
切り出す木材無尽蔵
- 18 **藪原**過ぎて**宮の越**  
朝日將軍義仲が  
旗を上げしはこのあたり  
晩鐘響く**徳音寺**(とくおんじ)
- 19 折しも左の畑中に  
高く立ちたる記念の碑  
東と西より進みたる  
中央線の接続点
- 20 木曾の都の**福島**は  
御岳詣での登り口  
山腹高く**棧橋**を  
過ぐればやがて**上松**よ
- 21 空に聳ゆる駒ヶ岳  
寢覚ノ床に臨川寺(りんせんじ)  
小野滝越えて**定勝寺**  
景色優れて眺め好し
- 22 **須原 野尻**で横に見る  
碧単渦中の木流しと  
錦織り成す紅葉は  
木曾の旅路の憂さ晴らし
- 23 **三留野**(みどの)を出でて木曾川を  
渡る鉄橋五十間  
しず母(しずも)の風景釣越は  
昔の道中しのぼる
- 24 **坂下**よりは飛驒街道  
木曾路を後に**中津**駅  
左に**恵那山** 右に**大井**  
電車に乗れば**岩村**町
- 25 **釜戸 瑞浪**打ち過ぎて  
**土岐津 多治見**両町の  
名高き産物陶器 磁器  
これぞ日本の輸出品
- 26 彼処(かしこ)に見ゆるは虎溪山  
土岐川清く波高し  
十四のトンネル絶え間なく  
**高蔵寺 勝川 夢現**
- 27 **大曾根 千種**も早過ぎて  
**鶴舞**公園目の当たり  
身支度整う程もなく  
汽車は**名古屋**に着きにける
- 28 待ちに待ちたる中央の  
鉄道もここに全通し  
国運ますます隆盛に  
栄ゆる御代ぞめでたけれ

愛岐トンネル群  
保存再生委員会